学校支援地域本部事業

自治体名

岩手県大船渡市

学校数

小学校　12校　　中学校8校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

東日本大震災による津波で市街地の大部分が被災し、多くの児童生徒が仮設住宅等から通学している。死者340人、行方不明者80人、建物被害 5,534 世帯、物的被害額約 1,077 億円、仮設住宅数 1,801 戸

＜取組名＞大船渡市図書環境整備支援事業、大船渡市スクールガード配置事業

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	1	59 人	176 回	13 小学校、5 中学校、通学路、スクールバス

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
	○		○	○	
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

震災以降、学校現場では多くの支援による寄贈図書が寄せられていたが、これを受付し登録、整理することは大きな負担となっていた。また、震災により、歩道や街路灯の損壊など通学環境の悪化による登下校時の安全が確保されないのではないかとの懸念が保護者から寄せられていたことにより、市教委と地域コーディネーターが学校と連携し、実態に応じて次のような様々な活動を実施した。

(1) 図書室支援ボランティア

読み聞かせ、図書の修繕、図書の受付・登録業務、図書室環境整備　等

(2) スクールガード

登下校の見守り、スクールバス同乗による指導　等

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

「大船渡市が、大災害を乗り越え、よりよいまちとして再生する」ことを全体目標として、市民がともに協力しながら復興に取り組むこと。

・市民生活の復興（住宅再建、福祉・医療の充実、教育施設の再建等）
・産業・経済の復興（経済活動の早期回復、雇用の確保、水産業・商業・観光産業の再建等）
・都市基盤の復興（道路、河川、港湾、情報通信基盤の整備等）
・防災まちづくり（新たな防災体制の整備、防災教育・防災訓練の充実、地域コミュニティの強化等）

◇住民等からの要望・必要な取組

当市全域にわたる産業の再生や施設の再建が最優先の課題ではあるが、子どもたちを取り巻く教育環境の悪化については、保護者や学校からも強い要望がある。また、学校のニーズに応じて柔軟に取り組める学校への支援事業の展開が必要とされている。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

コーディネーター　～　市の職員が務めており、関係機関等との連携を図った。
ボランティア　～　市教委（コーディネーター）が学校を通じて募集をした。
・市教育委員会　～　実行委員会等の開催及び事業推進に係る助言等
・学校　～　活動場所の提供、児童生徒及び保護者への周知等

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・改善が活かされ事業がより充実して展開できるようにPDCAサイクルを意識して取り組んだ。
・それぞれの学校のニーズを把握するとともに、具体的な取り組み内容の提示に務めた。
・日々変化する地域の実情を理解して事業運営に当たるように努めた。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・ 図書ボランティアでは、読み聞かせ以外にも本の修理や寄贈図書の受付作業を行っており、子ども達が利用しやすい図書室となるよう環境整備を行った結果、図書室を利用する子どもたちが大幅に増えた。
・ボランティアからは、子どもの役に立つことへの充実感とともに、学校と子どもたちの元気な様子が見えて嬉しいといった感想が寄せられており、これからも携わっていきたいという感想が寄せられている。

◇課題や今後の展望

・ 震災により被災した地域住民が多く、ボランティアとして活動することが困難になり、継続した活動を見通すことが難しくなっている。
・ 学校によっては、事業そのものに負担感を感じ、理解と協力が得られない場合もあることから、事業の意義や効果についての共通理解をより深めていく必要がある。